

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103163		
法人名	株式会社ペシエ・ドマーニ		
事業所名	グループホーム 和が家		
所在地	長崎市深堀町5丁目216番2		
自己評価作成日	平成22年2月5日	評価結果市町村受理日	平成22年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成22年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模のグループホームの利点を活かした、家庭的でキメの細かいケアをモットーにしています。併設の住宅型老人ホーム(定員4名)との兼務もあわせ、夜間は利用者13名に対して夜勤2名体制をとっており、夜間のケアもさらに行き届いたものを提供しています。日中も基準人員配置以外に人員を配置(日勤、半日勤など)しており、病院受診や、催し物などにへの対応を強化しています。その他、ショートステイ利用、ターミナルケアの実践など、利用者及びその家族の方々の要望に、出来るだけ対応するよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の一角にホームはある。職員は利用者と日常的な外出支援を心がけ、地域の中で「和が家」として安心した暮らしができるように支援している。その為に各方面からの意見を積極的に取り入れる姿勢を持ち、代表を含め事業所全体で取り組んでいる。外部評価は運営推進会議や職員への報告後意見を聞きながら、改善計画を作成し改善に取り組んでいる。また家族からの要望も取り入れ、ホーム便りの発行を現在検討している。職員間では密に話し合いを行い、情報共有を行っており利用者の最新状況を把握し、今必要な介護支援を的確にできるように連携が取られている。医療連携も十分に取られ利用者、家族の安心にも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の観点から、地域の中で安心した生活を続けていくための理念をスタッフ全員で作りました。その理念は定期ミーティングでも常に取り上げ、また必ず視線が行く位置に掲げており理念の実践に取り組んでいる。	職員は「ゆったりと、いきいきと、あなたらしく、地域の中でお互いに、支え合って生活していけるよう支援します」という理念を毎月のミーティング時に復唱している。日々の介護には「利用者らしく」に重点を置き、利用者への声かけを注意し、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	参加が可能な行事には進んで参加するように努めている。(近隣の神社での催し物など) 又、保育園の招待で敬老会も参加させていただいた。	近所の神社の祭りに出向いたり、保育園の敬老会に参加したり、地域の交流に努めている。日頃の散歩時に交わす挨拶から地域の方々と顔なじみになり、徘徊時の地域の見守り体制にも繋がっており、交流はできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	訪問者からの介護に関する心配事や相談、見学はできる範囲で対応し、アドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では、報告、話し合いに努めている。その内容でサービス向上につながるものは活かすよう意識している。	規定メンバーで開催され、事業所の現状、外部評価の報告、行事案内報告等を行っている。家族から提案のあったホーム便りについては現在の手書きのコメントの他、ホーム便りの発行希望など話し合わせ、職員とともに検討している。今年度は3回の開催であった。	運営推進会議がメンバー間の情報交換や事業所への提案の場となっており、会議の内容を一層サービス向上に活かすためにも、定められた年6回の開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市から派遣される介護相談員の受け入れ、活用のほかに、事故報告の的確な処置、定期的報告、監査での対応などは実践しているが、現実的には、その他の行き来、情報交換はさほどない。	年1回、介護相談員の受け入れや、市福祉課の職員の訪問もあり、連携が取れている。事故報告や入居状況など情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことを日常的に話し合っており、言葉での制止、態度での抑圧も行わない様努めている。	身体拘束ゼロを前提とし、県の身体拘束に関するアンケート調査を全職員で話し合う中で拘束のないケアを再確認している。利用者の立ち上がり等の声かけは、事例を挙げて検討し、言葉での制止等も常に注意している。玄関は夜間のみ施錠である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については学ぶ機会はまだない。事業所内で虐待で問題になったことは過去に一度も無い。入居者個々を尊重した介護をするよう話し合い努力している。		

グループホーム 和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連する研修会に参加し、学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、不安や疑問を尋ねて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満はスタッフが受け入れ介護に活かしている。又、市からの介護相談員を受け入れている。家族等に関しては、意見や不満を気軽に言える関係作りに勤めている。また意見箱を玄関に設置している。	利用者の意向や希望を職員は聞き取り共有している。また年に1度訪問のある介護相談員からは利用者との会話で出された情報を得ている。家族の意見は訪問時や電話での状況報告時に聞いている。家族の意見で、ホーム便りの発行希望があり、職員間で反映するよう検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月次のミーティングを始め、日々のやりとりの中で直接意見を聞く機会を設けており、出来るだけ考慮、反映している。	月末のミーティング時は、職員が話しやすい雰囲気であり、活発に意見交換ができています。利用者のケア方法についての提案や外部研修の受講、シフト変更などの希望については、代表と管理者が聞き取り検討し、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、全職員の勤務状況を把握し、職員の資格取得奨励、賞与査定、給与水準の向上、休日の増加、勤務時間の短縮、職員の増強等、また介護職員処遇改善助成金の適用などで、就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に行われているグループホームの研修会には研修委員をはじめ参加している。又、各関係機関が催す研修、講習などには出来るだけ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常にスタッフ同士で意見、情報交換を行っている。グループホームの合同研修会には毎回参加している。運営者は代表者間の情報交換を常に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い、困っていること、不安なことを受け止め、信頼してもらえるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況や、これまでの介護の経緯を聞きながら、それを受け止め、安心してもらえる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や訪問を受けたときは適切なサービスを一緒に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵やことわざ、日々の会話や作業の中で教えていただく場面作りを大切にしている。又、その際には感謝の言葉や感動を伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の支えが最も大切なのでその関係を大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅付近への散歩、ドライブ、利用していたお店での買い物、その場で出会った知人との会話など支援している。	近くの商店での買い物や馴染みの美容室に行ったり、自宅周辺をドライブしたりと馴染みの場所や人との交流を支援している。家族や親戚の訪問があり、一緒に外出されたり、遠方の家族には電話をかけるなど馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方それぞれで関係が出来ていくので、その中でスタッフがよい関係であるようトラブルにならないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を絶たない付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を把握し、本人との対話の中で「思い」を知るよう努めている。	生活歴を把握することで、利用者との会話を増やし、その中で本人の思いを聞き取っている。またゆっくりとした時間を持つことで、利用者が話しやすい雰囲気を作るようにしている。表現困難な方にも声かけをし意思を表情から汲み取り本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他サービスからの情報提供、家族からの聞き取り、本人との会話の中で把握することを努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れの中で本人が自ら発揮する「できること」も把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向もきき、本人へも日常会話の中で、お話をしながら問いかけ、作成している。	短期3ヶ月の見直しを行っている。毎月ケアカンファレンスを行っており、担当職員が原案を作成し、利用者・家族の要望を取り入れている。日々実践した介護は、個人記録に記載されているが、職員間で記録の具体性に差が見られる。	介護計画の評価、作成には個人記録が有効な資料であるため、記載方法を平準化し、次回の介護計画に活かされることを希望する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にその日の行動、言動、状態を細かく記入している。 又、朝・夕に個々の申し送り表に記入し、口頭でも伝え情報を共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイの受け入れ、病院受診への対応、介護用製品の導入など柔軟に対応し、多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの図書館で本人カードを作って利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近辺から入所の方は引き続きかかりつけ医に往診してもらっている。他はホームの提携医に往診してもらっている。	かかりつけ医の継続受診が行われている。皮膚科、眼科、耳鼻科等は、職員が同行し、受診結果を家族に報告している。協力医とは急変や夜間対応、往診など体制を確立している。利用者の状況に応じて家族へ協力医の紹介も行っており、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつも受診している医院の看護師へ気軽に相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関、および近隣の総合病院との連携で、協働を実践している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携医療機関、かかりつけ医、家族、職員などで検討会議を持ち、全員で方針を共有している。医療機関の協力のうへ、ターミナルケアが可能と判断した場合、実践している。	終末期の方針は、契約時に本人や家族に説明をし、同意書を作成している。利用者の体調変化に合わせ、医師と連携を取り、状況に応じて家族も交えた話し合いが行われている。職員も方針を共有し、これまでに3人のターミナルケアの実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが研修会などで訓練・知識を得ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の協力・指導を得て、消防避難訓練を行っている。甲種防火管理者の講習を受講した。	年2回消防署立会いの下、夜間想定や火元を変えるなどした避難訓練を実施している。避難場所や経路も、確認されており、消火器の取り扱いも全職員できる。地域にも消火訓練報告と参加呼びかけを行っており、協力体制を築くよう取り組んでいる。災害時マニュアルや備品も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助中も誇りを損ねないような言葉かけ、対応を工夫している。	利用者の人格を尊重し、声かけにも充分配慮されている。職員間で気になった事は、その都度話し合われている。契約書や個人記録は所定の場所に保管され、職員の守秘義務は、契約書の中に取り込まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの押し付けはしないよう努め、複数の選択肢から決めてもらう問いかけも行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、就寝時間など各入居者のその日の体調や状態を把握した上で個別に対応している。過ごす場所も基本的には自由にしてもらっているが、リスクを伴う事もあり、人によって我慢してもらうことも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマや髪染め等本人の希望にそって行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片づけを利用者と一緒に行っている。昼食はスタッフも一緒に食卓につき楽しく食事できるよう、話題づくりに努めている。	利用者の嗜好や旬の素材を献立に取り入れている。下準備や茶碗拭き、テーブル拭き等利用者も手伝っている。アレルギー対策で別の献立にしたり、体調に合わせたとろみ食等利用者に沿った対応をしている。職員も介助しながら一緒に食事をしており、食事が利用者にとって楽しい時間となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量不足が続くときは補助的な食品提供を行っている。水分が不足する方は好みの飲み物(コーヒー、スポーツ飲料水など)を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。 義歯は毎晩洗浄液につけている。		

グループホーム 和が家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツとパッドですごしてもらっている。行きたいときに行けるよう支援している。尿意のない方は、時間を見計らって声かけ誘導している。	排泄表でパターンを把握し、時間や利用者の仕草からトイレに誘導している。誘導の声かけ方法も個別に対応されている。昼間は布パンツで過ごすよう支援し、改善された事例もあるなど、排泄の自立支援に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をたくさん取れるよう取り組んでいる。おやつ時、ヨーグルトやさつま芋、寒天類の手作りを心こころがけている。下剤等はその人の状態に合わせて使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の意向を聞き、入浴してもらっている。寝る前や、時間をずらしたり、希望に添えるようにしている。	日曜以外は毎日入浴できる。最低でも週2回は入浴するよう支援している。失禁や体調に合わせて、シャワー浴、清拭を行っている。同性介助も可能であり、拒否の場合は声かけの時間をずらしたり、職員を変えて、対応している。お湯の交換も随時、行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の入眠時間に合わせて休んでいただいている。眠れない方は昼間の生活リズムを整えるよう努めている。又、お昼寝の声かけも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、編み物、大工仕事等、その人の得意な仕事をお願いし力を発揮していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物など支援している。近辺であれば、個別に対応している。「墓参りに行きたい」、「娘の頃いたところに行きたい」等。	ホーム周辺の散歩や希望や利用者の状況に応じてドライブに出かけたりしている。また日曜日はドライブの日と決めて買い物や外食に出かけている。職員は全利用者の要望を聞き支援できるように検討している。ランタン祭りや、花見、遠足、夏祭り等計画し、外出の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じて所持してもらっている。預かっている方でも買い物時には本人に私払ってもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望で電話したり、また取りついでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設という雰囲気なるべく感じさせないように家庭の延長であるような物品、装飾品を使用している。	明るいリビングはカーテンで光を調節しており、テレビの音量も静かで、気になる臭気も無い。季節の活け花がテーブルに飾られ、ソファや畳の上でゆったりくつろぐことができる。バリアフリーで廊下などには手すりの設置やエレベーターもあり、利用者が快適に過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広く明るいリビング・ダイニングに加え、畳のスペースを設けており、ゆっくりしたいときや少し横になりたいときは利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅を訪ねて、本人やご家族と持ち込む家具類について話し合うようにしている。使い慣れた家具、仏壇を持ってこられており、一日が仏壇の世話から始まっている。	自宅から愛用の家具や品物が持ち込まれ、調度類の配置など個性的な居室である。エアコンや空気清浄機の管理、午前中の掃除など職員が行い、清潔を心がけており、利用者が安心して過ごすことができる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関や浴室、トイレ、階段、廊下には身体機能に合わせて手すりを設置している。		